

策定要領

自治体名 第2期SDGs未来都市計画
(案)
(2025～2027)

計画のサブタイトル等がある場合は
ここに記載することが出来ます。

自治体名

1. はじめに

「SDGs未来都市」については、3年間のSDGs未来都市計画を策定し、その達成に向けた取組を積極的に実施することとしています。さらに、令和6年7月17日に開催された第87回自治体SDGs推進評価・調査検討会において、2024年度に計画期間が終了する2022年度SDGs未来都市については、2025年度～2027年度の第2期SDGs未来都市計画(以下、「計画」という。)を策定するか都市で判断することが確認されました。計画の策定を予定している都市につきましては、計画の策定をお願いいたします。

計画策定に当たって、不明点等があれば、下記の連絡先までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

内閣府地方創生推進室

E-mail: g.Local-governments-SDGs@cao.go.jp 電話: 03-5510-2199

2. 基本事項

- 計画策定の流れは、令6年〇月〇日付事務連絡【ご依頼】第2期SDGs未来都市計画の策定について」の添付資料1「SDGs未来都市計画策定作業の流れ」を御参照ください。
- 第2期計画は、原則2025年度から2027年度までの3カ年計画となります。
- 原則として、現計画の内容を踏まえた計画としてください。
- 現計画で、自治体SDGsモデル事業(特に注力する先導的取組)を記載されていた自治体においては、「2 自治体SDGsの推進を資する取組」等へ含める形で記載してください。
- 計画(素案)の作成に当たっては、自治体SDGs推進評価・調査検討会による進捗評価結果を踏まえて作成してください。
- 計画に記載いただいた内容について、有識者の支援も得て定期的に取り組の進捗状況確認を行い、その達成度を明確にする予定としています。

3. 留意事項

【文章量について】

- 簡潔で読みやすい計画となるよう意識し、**全体で30頁以内を目安**に作成してください。
- 冗長な記載とならないよう、必要な内容を簡潔に記載してください。
- 一部の項目については、頁数の目安を示しておりますので御留意ください。

【体裁等について】

- 文字は注記、解説、表中の記述等を除き原則として11ポイント以上の大きさとしてください。
- 文章の語尾は「です・ます調」ではなく、「だ・である調」に統一してください。
- 改ページの位置は変更しないでください。
- 必要に応じ、図や画像を使用して作成してください。
- 必要に応じ、客観的、定量的なデータを記載してください。
- 地域固有の事情の説明等で文章が長くなる場合については、必要に応じ、「解説」として各記載欄の末尾に付記してください。
- 本策定要領及びフォーマットに記載された、各項目の内容は、変更せず作成ください。

< 目次 >

1 将来ビジョン	
(1) 地域の実態.....	2
(2) 成果と課題	X
(3) 2030年のあるべき姿.....	X
(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....	X
2 自治体SDGsの推進に資する取組	
(1) 自治体SDGsの推進に資する取組.....	X
(2) 情報発信.....	X
(3) 普及展開性.....	X
3 推進体制	
(1) 各種計画への反映.....	X
(2) 行政体内部の執行体制.....	X
(3) ステークホルダーとの連携.....	X
(4) 自律的好循環の形成.....	X
4 地方創生・地域活性化への貢献	X

現計画で、自治体SDGsモデル事業(特に注力する先導的取組)を記載されていた自治体においては、「2 自治体SDGsの推進を資する取組」等へ含める形で記載してください。

※改ページ

(2) 成果と課題

【策定要領】

・第2期SDGs未来都市計画にどう繋げていくのか、第1期SDGs未来都市計画の成果と課題について、1頁程度を目安に記載してください。

【策定のポイント】

・進捗評価の内容を活用する等、主要なKPIを掲載し、具体的かつ簡明に記載ください。

※改ページ

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

【策定要領】

- ・2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲットを、経済・社会・環境のそれぞれの側面について記載してください。
- ・各ゴール、ターゲットについて、KPIを設定、記載してください。また、記載したゴール、ターゲット及びKPIについて、設定した理由を記載してください。
- ・1つのゴール、ターゲットに対して複数のKPIを設定したり、複数のゴール、ターゲットに対して共通のKPIを設定しても構いません。
- ・KPIの目標年次は2030年を目安としますが、既に策定済みの総合計画、環境基本計画等において、中長期的目標の設定がある場合は、それを引用しても構いません。また、KPIを、今後新たに検討、策定する予定がある場合は、現段階では暫定的な目標設定でも構いません。

【策定のポイント】

- ・選択するゴール、ターゲットの数に制限は設けていないが、総花的なゴール・ターゲットの選択となっていないか。
- ・KPIの設定においては、全体計画における、それぞれの施策推進に係る進捗を確認するうえで、適切な指標かどうかを精査できているか。
- ・可能であれば、例えば、以下に示すような事例を用いて「ロジックモデル」や「インパクト評価」の検討をしてください。



※上記の図は、「社会的インパクト評価ツールセット実践マニュアル」(Ver.2.0)

2017年6月29日 GSG 国内諮問委員会 社会的インパクト評価ワーキング・グループから、抜粋。一部、事務局により加工

ロジックモデルの図：P9「ロジックモデルの用語について」、

インパクト評価の図：P7「図表2：評価の実践ステップ」

- ・必要に応じて、ローカル指標リスト

(https://www.chisou.go.jp/tiiki/kankyo/kaigi/sonota/sdgs_shihyou_risuto_2.pdf)を積極的に活用できているか。

○○○○○○○○○○○○○○○○。

※記載例

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI (目標年次が 2030 年でないものについては●●計画から引用)	
 ゴール: 7 ターゲット: 7. 2、7. 3、 7. a	指標:再生可能エネルギー導入量	
	現在(○年○月): ○○○○	2030 年: ○○○○

○○○○や○○○○といった地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入を進め、○○○
○という 2030 年のあるべき姿の実現を図る。

※1つのゴール、ターゲットに対して複数のKPIを設定、または、複数のゴール、ターゲットに対し
て共通のKPIを設定する際の記載例

ゴール、 ターゲット番号	KPI (目標年次が 2030 年でないものについては●●計画から引用)	
 ゴール:○ ターゲット:○ ○、○○、	指標:○○○○	
	現在(○年○月): ○○○○	2030 年: ○○○○
	指標:○○○○	
	現在(○年○月): ○○○○	2030 年: ○○○○
ゴール、 ターゲット番号	KPI (目標年次が 2030 年でないものについては●●計画から引用)	
 ゴール:○ ターゲット:○ ○、○○、	指標:○○○○	
	現在(○年○月): ○○○○	2030 年: ○○○○
 ゴール:○ ターゲット:○ ○、○○、		

※改ページ

2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

【策定要領】

- ・2030年のあるべき姿の実現、及び、優先的に取り上げるゴール、ターゲットの達成に向けて、今後3年間に先導的に進める取組のうち地域の象徴的な取組の概要について、記載してください。
- ・現計画で、自治体SDGsモデル事業(特に注力する先導的取組)を記載されていた自治体においては、主に本セクションへ含める形で記載してください。
- ・各取組について、関連するゴール、ターゲット及び2027年のKPIを記載してください。
- ・1つの取組に対して、複数のゴール、ターゲット及びKPIを設定しても構いません。
- ・KPIの目標年次は2027年を目安としますが、既に策定済みの2027年頃を目標年次としたKPIがある場合は、それを引用しても構いません。また、KPIを、今後新たに検討、策定する予定がある場合は、現段階では暫定的な目標設定でも構いません。
- ・地方創生推進交付金による資金的支援を希望する事業については、末尾に「(地方創生推進交付金申請予定事業)」と記載してください。

例:1. ○○○○ 関連するゴール○○、ターゲット○○ ○○○○事業(地方創生推進交付金申請予定事業)

- ・計画の進捗管理の際には、KPIの達成度に関して、進捗した具体的な取組内容や2024年の目標達成に向けた取組課題や対応策等を記載いただく予定です。

以下の計算式を基本としKPIの達成度を測ります。

達成度の計算式(基本式)

$$\frac{(\text{現状値(進捗報告年の現状値)} - \text{当初値(計画時の現在値)})}{(\text{目標値(2027年の目標値)} - \text{当初値(計画時の現在値)})}$$

- ・上記の基本式で計算できないKPI(人口、空家数など維持を目標とするKPI等)とした場合は、別の計算式を用いても構いません。その場合は、使用する計算式についても併せて記載ください。

※参考 基本式で計算できない達成度の計算の対応例

例1. 人口(現状値1,000人、目標値1000人) 現状値/目標値 の計算式を使用

例2. 新庁舎の建設(現状値0件、目標値1件) 実施設計の完了で、50%の達成度

【策定のポイント】

- ・各取組は、前節で記載した優先的なゴール等の達成に資する包括的・戦略的なものであり、具体的に記載されているか。
- ・選択するゴール、ターゲットの数に制限は設けてはいないが、総花的なゴール・ターゲットの選択になっていないか。

oooooooooooooooo。

※改ページ

自治体名 第2期SDGs未来都市計画（2025～2027）

令和〇年〇月 策定